

令和5年10月12日（木曜日）



視察する足立氏（中央）  
 〓 足立敏之事務所提供

自民党の足立敏之参院議員は、9月の台風13号で豪雨災害が発生した福島、茨城両県の被災状況を視察した。視察後、取材に応じた足立氏は、今夏のほかの被災地域と共通した問題点として「市街地を流れる中小河川の浸水対策が喫緊の課題」と

## 台風13号で 豪雨災害 福島・茨城の被災状況視察

指摘。中小河川であっても「流域治水」の考え方を導入し、あらゆる関係者が連携し対策を講じる必要性を強調した上で「国がリードし、県などの自治体の問題意識を持って取り組むべきだ」と訴えた。

9月20日に現地で被災状況を調査した。福島県いわき市では市街地の宮川や新川が氾濫し、

### 足立敏之参院議員

約1300戸が床上浸水の被害を受けた。同市内でも調整池が整備された湯本川の下流では被害が軽減されており、事前防災対策の重要性が浮き彫りとなった。

足立氏は抜本的な改修が難しい市街地の中小河川だからこそ流域治水の考え方が必要と指摘。流域内のダムや遊水池・調

## 市街地中小河川、流域治水推進へ関係者連携を

節池、校庭貯留、地下調節池などを組み合わせた対策を検討するため、地域のあらゆる関係者の連携・協力が重要との認識を示した。

茨城県日立市では、山間部の土砂災害で東西を結ぶ県道などが寸断。その後も通行止めが続いたことを踏まえ、足立氏は「道路ネットワークの強靱化が必要」と強調する。あらかじめ通行止めにならないような道路構造に転換したり、迂回（うっかい）路を設けるなど短時間での復旧が可能な対策を講じたりする必要があったとした。

各地で建設会社などが施設復旧や災害廃棄物の処理に尽力する姿も視察。災害発生時に地域建設業が活躍できる環境を維持するため、引き続き新3K（給与・休暇・希望）の実現に向けた施策の推進に力を注ぐ考えだ。